

後援会だより　～親子で綴る法政の4年間～

大學4年間で得たもの

山田 智之
社会学部

男子校としての最後の代に法政中高へ入学し、さまざまな活動に参加してからはや10年。中学・高校時代の6年間はスキー部に所属して練習に励みました。高校から大学にかけては、貧困問題をテーマとする集会に参加し、さまざまな先生方にお会いしたことで密度の濃い大学生生活を送ることができました。大学から始めた体育会射撃部では、試合運営の学生連盟員として活動する一方で、今年度は

主将も兼任。個人では東日本大会で入賞し、女子団体が初優勝するという結果を得ました。しかし、その結果以上に得たものは、共に過ごしてきた仲間や支援いただいた方々とのつながりです。監督や部長、OB・OG、体育課の方々、そして学費だけでなく後援会活動もしてくれた親には感謝できません。大学では本当に多くの人々の支えがあつて自分がいることを再認識しました。

4月からは、人材コンサルティングの会社に就職しますが、コンサルタントとして就労を支援することで、社会に貢献したいと考えています。これまで出会った方とこれから出会う方とのつながりを

視野が広がった4年間

高沢 陽介
現代福祉学部

大学4年間を振り返ると、さまざまな経験をすることことができたと思います。「地域」を学びたいと考え、現代福祉学部に入学してからの4年間で、視野が大きく広がりました。そのきっかけとなつた経験は、主に二つあります。

一つ目は、2年生の夏に参加したゼミ合宿で、離島の中学生や高校生たちと交流する機会があり、習慣の違いに驚くとともに、客観的な視点を持たなかつた自分を恥ずかしく思つたことです。同じ日本で暮らしていても、地域の違いや習慣に想像していた以上の違いがあることを知り、その後の学生生活では、主觀と客觀の両方の視点から物事を考えることができるようになりました。

二つ目は、1年生から約4年間続けてきたコーヒーショップチェーン店でのアルバイトを経験したことです。お客様に応じて接客の方法を少し変えるなど、接客マニュアルにない部分を突き詰めてみたことで、自分なりの仕事観を持つことができました。

地域のフィールドワークとアルバイトの経験から、心身ともに成長することができます。

大切にして、今度は自分が誰かを「支えられる存在」になれるよう精進していくます。

最後に、これまで出会った全ての方に「ありがとうございました」を、これから

卒立ちのとき

山田 昌之

卒業おめでとう。法政大学での生活は、とても充実したものでしたね。よく頑張りました。勉強をはじめ、震災以来毎年、宮古や東北各地へ復興ボランティアに参加したりしていましたね。就職活動がうまくいかないときも自分で考え、悩み、結論を出しました。たくさんの方々と出会い、学び教えたままでした。たくさんの方々と出会い、申しあげたいと思います。

総合団体優勝祝賀会



体育会射撃部では主将を務め、女子団体を初優勝に導いた

卒業おめでとう

高沢 香苗

入学式は春の風で、天候のごとく波瀾（はらん）万丈の学生生活が始まるのではなく不安に思つたことを覚えていました。ところが、学生生活は平凡そのもので、物足りなさを感じるほどでした。

しかし、いろいろな経験をして成長していくことに気付いたのは就職活動のときでした。自ら進む道を決め、実力を冷静に見極め、他人の意見も素直に聞き入れ、「その先の自分を創る」を実践している姿を見て、うれしく頼もしく思いました。卒業後も新しい自分を創つていってください。

台を見つめました。夢中になつて見てもらえた喜びと、大好きな仲間と作り上げることができた幸せで胸がいっぱいになりました。児童文化研究会で人形劇

をしたこと、人形班のメンバーと出会い

たこと、子供たちが真剣な眼差しを向け

てくれた時間は、大学生活で得たかけがえのない宝物です。



児童文化研究会での人形劇

卒業おめでとう

飯高 靖子

1年次のとき、ひょんなことから苦手なダンスを人前で踊る話が出て、悩んだ末にやるに決めた後のあるあなたの行動力に目を見張りました。2年次になつてサークル活動を始めた際もそうでした。一生懸命取り組む姿に、私も見習わねばと思つたのです。そうして過ごした4年間は、要領がいいとは言えないあなたにとって良いことばかりではなかったことはいえ、「努力は裏切らない」ことを証明するものでした。

この春から社会人となりますが、焦らず足元を固めながら自分の置かれた立場で花を咲かせてください。いつまでも応援しています。

得がたきを得た、そして与えられていた

金城 拓磨
文学部

何とも苦しい体験でした。

学業のかたわらサークル活動にいそしんで、友を得て夢をかなに酒を飲み、師を得て己が道を研さんするに至りました。学生としてこれ以上ない環境を得ることでできたのは、ひとえに両親の助力と母校たる法政大学の偉大な先達の残した環境によるものです。大学を運営する関係者の皆さまの努力の賜物であり、続くから的人生で、感謝の念が尽きることはないと感じます。

特にゼミでは中沢けい教授の指導の下、小説の作品を批評するに当たって、日々新鮮な発見がありました。先生の見識に触れる貴重な機会を得ることができ、何物にも代えがたい経験でした。

法政大学で学んだことを社会に還元していく人、学んだことを糧に生きていく人、卒業生の数だけさまざまな人生があるとは思いますが、この道を選んで良かったと胸を張れるように、力強く歩み続けたいと思います。

卒業に際し

金城 正宏

卒業おめでとう。自分自身で進路を決め、法政大学の門を叩いてからはや4年。入学式での君の姿は

誇らしく、ここで学ぶのだという夢と希望に満ちあふれ頗もしいものでした。

学生生活で得られた全ての経験は、刺激が多く貴重なものだったでしょう。その中で良き師、良き友との出会いで、より豊かで充実した日々を送ることができます。

感謝の気持ちを忘れることなく、社会人として自立

故郷を離れ、頼れるものは己だけといふ、なかなかタフな始まり方をした学生生活が今年で終わるとなると感慨深いものがあります。

親元を離れて間もなく、食事を満足に作ることができなかつたために貧困な食生活を送り、団らむ最初の4ヶ月で体重が10kgも減つてしまつたことは、今までよく覚えています。故郷から離れた後で、母の作ってくれたご飯がいかにおいしかつたかということに気付くといふ

主將も兼任。個人では東日本大会で入賞し、女子団体が初優勝するという結果を得ました。しかし、その結果以上に得たものは、共に過ごしてきた仲間や支援いただいた方々とのつながりです。監督や部長、OB・OG、体育課の方々、そして学費だけでなく後援会活動もしてくれた親には感謝できません。大学では本当に多くの人々の支えがあつて自分がいることを再認識しました。

4月からは、人材コンサルティングの会社に就職しますが、コンサルタントとして就労を支援することで、社会に貢献したいと考えています。これまで出会った方とこれから出会う方とのつながりを

主将も兼任。個人では東日本大会で入賞し、女子団体が初優勝するという結果を得ました。しかし、その結果以上に得たものは、共に過ごしてきた仲間や支援いた

2014年後半期稽古の休憩中
先輩と記念撮影

柔道部に所属していた息子が、高校2年生の冬のことでした。体重も軽く小柄な息子は、一本背負いを追究し、日々熱心に技の研究をしていました。

そんなある日、一本のインターネット動画に目が留まったそうです。それは、自分よりも小柄で、どう見ても強そうに見えない男性が、息一つ上げずに剛健な相手をバタバタと投げ飛ばしていく姿でした。「不世出の達人」と高く評価された武道家の塩田剛三氏です。これが合気道との出会いになりました。

柔道は、相手の力を利用してバランスを崩し、体をさばいて投げるのが基本ですが、昨今は体重別の試合が主流となり、パワーの占める割合が高くなりました。その点、合気道は、相手の力を利用するのはもちろん、関節をきめさせて合理的に相手を投げることもあります。

柔道部は、相手の力を利用してバランスを崩し、体をさばいて投げるのが基本ですが、昨今は体重別の試合が主流となり、パワーの占める割合が高くなりました。その点、合気道は、相手の力を利用するのはもちろん、関節をきめさせて合理的に相手を投げることがあります。

息子にはうつつけの武道だと思いま

した。
現在、息子が在籍している法政大学合気道部は、1957（昭和32）年発足の伝統ある部です。息子からは「他大学とは一線を画す厳しい稽古で知られ、一目置かれている」と聞いています。

ご指導いただく関根章弘師範、吉川滋師範、高溝真理子師範、島田裕正師範代、新井真人監督はじめ、諸先輩方のおかげで充実した活動をさせていただいている。

合気道を始めたころの息子は、稽古の厳しさに弱音を口にすることもありました。大丈夫かと心配もしましたが、時間の経過とともに、入部当初に感じていた厳しさに慣れたようです。

心にも余裕ができたころに、先輩から「中嶋は受身（格闘技において身体的ダメージを軽減するための防御の姿勢）がしつかりしているから、安心して投げられる」と言葉をかけられたと、うれしく話してくれました。これを聞いた私は、柔道の経験が合気道をする上で息子の励みになっているから、大丈夫だと安心しました。

息子にはうつつけの武道だと思いま

した。
現在、息子が在籍している法政大学合気道部は、1957（昭和32）年発足の伝統ある部です。息子からは「他大学とは一線を画す厳しい稽古で知られ、一目置かれている」と聞いています。

ご指導いただく関根章弘師範、吉川滋師範、高溝真理子師範、島田裕正師範代、新井真人監督はじめ、諸先輩方のおかげで充実した活動をさせていただいている。

合気道を始めたころの息子は、稽古の厳しさに弱音を口にすることもありました。大丈夫かと心配もしましたが、時間の経過とともに、入部当初に感じていた厳しさに慣れたようです。

心にも余裕ができたころに、先輩から「中嶋は受身（格闘技において身体的ダメージを軽減するための防御の姿勢）がしつかりしているから、安心して投げられる」と言葉をかけられたと、うれしく話してくれました。これを

2015年2月春合宿 三級昇級
(前列向かって左端)

■後援会ウェブサイトのご案内

<http://www.hosei-koenkai.org/>

法政大学のウェブサイトを開いていただき、オレンジ色のインデックスの「保護者の方へ」をクリックしていただけます。ぜひ一度ご覧になってください。



■「携帯メール情報」の配信案内

法政大学後援会は、メールマガジンを発行しています。東京六大学野球、ラグビーや箱根駅伝などのスポーツ情報、講演会などイベント情報を提供しています。一人ひとりの力は小さくとも、一致団結して盛り上げていきましょう。配信ご希望の方は、下記アドレスへ「メールマガジン配信希望」とお書きになり、登録されるメールアドレスをお送りください。koenkai-reg@ml.hosei.ac.jp



中嶋 美奈子

(崇善／法学部)

親からのメッセージ【合気道部】

私は成長させてくれた
大学生活

堤 萌香

経済学部

この4年間の大学生活は私にとって、忘れられない時間となりました。佐賀県から上京し、一人暮らしの生活で家族のありがたみを改めて感じることができました。学生寮に入っていたので、ここで出会った友人や寮父母さんは家族のようにかかわることができる、とても心強かったです。

法政大学での学校生活が始まり、初めてのことばかりで分からぬことも多

く、先生方をはじめ先輩方にさまざまアドバイスをいただき、友人と一緒に講義や試験を頑張ってきました。またサークルでは上下関係だけではなく、仲間とともに練習を重ね頑張ることで、今までになかった自分の考え方や友人・先輩・後輩を思う気持ちが生まれました。技術面だけではなく、精神面も強くしてくれた経験だと思います。

東京ディズニーリゾートでのアルバイトの経験も、この4年間で心に残っていることの一つです。幼いころから憧れていた場所で約2年間働き、つらいことや変なこともありましたが、それ以上にすてきな笑顔になれ、心から樂しませる時

間を過ごしました。ここで学んだことの多くを、忘ることはできません。

学生生活のなかで、たくさんの人とのかかわりや支えがあつたからこそ、今の私がいるのだと思っています。家族や友人・恩師の方々には感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。私は、恩師の方々には感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。この思いを大切にし、これから社会人として、さらに自分を成長させていくよう努めたいと思います。

卒業おめでとう！長いようで短い4年間だったと思います。大学生として、さらなる自己成長を目指してまい進していくことを、心からおめでたさざまな経験は、あなたの将来にきっと役立つことでしょう。多くの方々とのご縁とご支援により得られたこと全てに「感謝」し、社会人になつても荒波に負けずに頑張ってください。父と母も、あなたのおかげで法政大学後援会とのご縁があり、多くの人のとの出会いや交流ができたことに「感謝」しています。法政大学を卒業したことに誇りを持ち、「感謝」の気持ちを忘れずに着実な歩みを続けてください。これからも心援しています。

親元を離れ上京し、はや4年が経ちました。実家で好き勝手にやつてきた自分が、一人で東京に出てきて、右も左も分からぬまま法政大学に入学しました。振り返って思うのは、人との出会いに感謝してもしきれないということです。

1年生の秋に「マネージャーをやってくれないか」と選手に声をかけられたことをきっかけに、第二体育会準硬式野球部に入部し、マネージャーとして活動していました。また、そのように彼らを大切に思

人との出会い

古田 優子

法学部

この部では、年に2回、東都大学野球連盟のリーグ戦に参加しています。そのリーグ内で2度も優勝するという、素晴らしい感動を与えてもらいました。マネージャーとしてこれ以上に幸せなことがあるのかと心からうれしく思います。負けないほど感動の涙を流していました。

プライベートでもとても仲がよく、よくみんなで集まって遊び、実家を出て一人暮らしをしていた私にとって、とても温かく居心地のよい場所でした。2月に行つた卒業旅行では、選手がいつも通り大声で笑い楽しんでいる姿を目にして、いつまでもこの姿を見ていたいと思いました。また、そのように彼らを大切に思

夢に向かって

古田 かおる

えることがうれしくて、とても幸せな気持ちになったのを覚えています。

大学生という自由に使える時間の多くを、部活動に費やしてきたわけですが、本当に最後まで続けて良かったと心から思います。卒業後はそれぞれの道を歩んでいますが、関係はいつまでも続くと確信しています。

卒業、そして就職おめでとう。「英語の力を生かした仕事に就きたい」と法政大学に入学したのがつい昨日のようですね。希望の企業への就職も決まり、夢へ一步前進ですね。これから初心を忘れず、人ととのつながりを大切にしていてください。

そして、この4年間であなたがいろいろな方とのかかわりを通して学び取ったことを糧に、持ち前明るさを忘れず、自信を持ってまい進していくください。今のあなたならきっとできます。故郷でずっと見守っています。

基本の形稽古・腰投げ
(市ヶ谷総合体育館の柔道場にて)

中嶋 美奈子

(崇善／法学部)

アルバイト先の東京ディズニーリゾートで
(右から3番目)準硬式野球部の仲間たちと
卒業旅行(パリ島にて)